知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」
－生活単元学習「ラーメン店をひらこう」の実践から－

Independent, Interactive and Profound Learning of Children with Intellectual Disabilities
: A Practical study of “Open the RAMEN shop” on Life Unit Learning.

三浦　駿介　　春日　知花
Shunsuke MIURA　　Chika KASUGA

【キーワード】知的障害　主体的・対話的で深い学び　アクティブ・ラーニング　生活単元学習

１．はじめに

学習指導要領の改訂では、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という３つの柱が示された。そして、これらの育成すべき資質・能力を踏まえ、「何を学ぶのか」という具体的な指導内容等の検討と、それらの内容を「どのように学ぶのか」という点で、アクティブ・ラーニングの指導方法の必要性が示された（国立特別支援教育総合研究所 , 2016）。

アクティブ・ラーニングは、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶことであり、新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」という表現で示されている。

特別支援教育においては、以前から知的障害のある児童生徒に対し、生活単元学習や作業学習といった教科等を合わせた指導において、総合学習や体験学習を通した主体性を重視する教育が行われてきた。しかしながら、それらの実践がどのような点で「主体的・対話的で深い学び」となっているのかを３つの柱の観点に基づいて整理したものはまだ少ない。

埼玉大学教育学部附属特別支援学校（以下、本校）では、生活単元学習を教育課程の中心に据え、生徒の主体性を育み、自立と社会参加をめざした実践を重ねてきた。本稿では平成 29 年度の中学部１年生の生活単元学習において、問題解決学習を取り入れた単元を設定し、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」の視点から実践を整理し、その成果をまとめることで、知的障害教育の生活単元学習で「主体的･対話的で深い学び」をどのように実現していけばよいのかについて考察を行った。

２．知的障害教育における生活単元学習のねらい

知的障害教育では、児童生徒の学習上の特性を踏まえ、教科別の指導に加え、教科等を合わせた指導である生活単元学習や作業学習、遊びの指導を学習活動の中心に据えている。中でも生活単元学習は「児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するもの」（文部科学省，2017）とされているように、生活の流れやまとまりに沿って単元や学習内容を構成するため、実際的な生活体験を積み重ねる中で学びを深め、実社会において自分の力を最大限に発揮できるようになることへの効果が期待される。

３．知的障害教育における「主体的な学び・対話的な学び」の課題

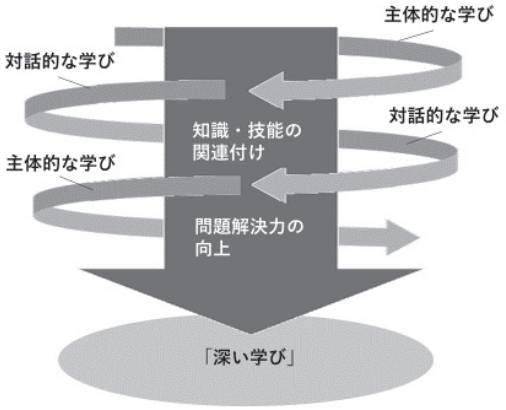
これまで知的障害教育では、生活単元学習を中心とした教科等を合わせた指導において、総合的な学習内容を取り上げ、生徒が興味関心をもてる題材の設定や生徒同士の協働などの工夫を行ってきた。

中央教育審議会（2012）は、アクティブ・ラーニングを「学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称」とし、その具体的な手法として「発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等」、「グループ･ディスカッション、ディベート、グループ･ワーク等」を挙げている。また、学習指導要領の改訂のポイントとして、アクティブ・ラーニングの３つの視点、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」から学習過程を質的に改善する必要性が示されている。

しかし、知的障害教育においては、基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られることがあり、「深い学び」にいたるには難しさがある。さらに、学習指導要領解説（文部科学省 , 2017）では、知的障害のある

児童生徒の学習上の特性として、「学習によって得た知識や技能が断片的になりやすい」ことが挙げられ、そのためには「繰り返して学習すること」「継続的・段階的な指導」が重要であるとされている。

そこで筆者らは、知的障害教育の生活単元学習において、授業における取り組みの中で、知的障害児の苦手とする知識・技能の関連付けや、生徒同士の協働によって問題解決がなされることをもって、「深い学び」ととらえることとした。そして、学習活動によってなされる「対話的な学び」により考えが広がり、「主体的な学び」を引き出す実践・振返りを段階的に繰り返すことによって、知識・技能の関連付けや問題解決能力の定着、すなわち「深い学び」につながるのではないかと考えた。



後述するように、本校中学部（以下、中学部）の生活単元学習では、年間のテーマに基づいて単元を計画している。この年間のテーマに基づいた単元の中で、教師が意図的に問題解決学習を設定していくことで、「対話的な学び」と「主体的な学び」を繰り返し、「深い学び」へとつなげていくことができるのではないかと想定された。

そこで、中学部の生活単元学習の実践について、この「主体的な学び」「対話的な学び」の視点から考察を加え、「深い学び」に至っているか検証を行った。

４．対象学級における生活単元学習の実践

（１）中学部の生活単元学習

小学部、もしくは義務教育学校等を卒業し本校に入学してくる生徒は、それぞれの学習の場で６年間の学習を積み重ね、興味関心の広がりや、自分の考えや意思を表現する様子が見られるようになってくる。さらに、様々な集団での活動を経験してきたことにより、中学部の３年間という時期は、興味関心を自ら拡げ、意欲的に物事に取り組む姿が期待できる時期と考えている。また、特定の教員や友だちだけでなく、学級や学部といった集団の中でも徐々に自分の力を発揮する時期でもある。そして、学校の中だけでなく、学校外でも豊かな体験を多く重ねることで、それらの力の伸長が期待できる。このような成長の過程に、生活に即した実際的・総合的な学びを通して、さらなる自立と社会参加をめざすことから、中学部では生活単元学習を学習活動の柱としている。

具体的な学習内容としては、各学年がその年のテーマを設定し、年間を通して広がりと繋がりのある単元計画を組んでいる。身近な題材を取り入れることで興味関心を高め、繰り返し活動を設定することで見通しをもち活動に慣れることができるため、指導の重点としている「基本的生活習慣の確立と生活技術の向上」「集団参加と人とかかわる力の育成」「最後までやり遂げる力の育成」「主体的に生活する力の育成」をねらうのに適した内容となっている。

また、中学部の段階では勤労観や職業観の育成も並行してねらいとしており、１学年では職業模擬学習、２学年では就業体験（職場体験学習）、３学年では校内実習の単元を設け、系統的に学習を積み重ねている。各学習内容の選定については、３年間で産業分類、第一次（農業、水産業等）、第二次（加工、製造等）、第三次（サービス業、商業等）の経験の蓄積・バランスを考慮し、幅広い経験ができるようにしている。

（２）学級の実態

本稿の対象学級は知的障害のある男子４名女子２名の計６名で構成され、障害の程度やあわせもつ特性は様々である。基本的生活習慣については、着替え、排泄、食事等においてほぼ自立している生徒から、生活全般において支援を必要とする生徒まで実態に幅がある。また日程や手順等に見通しがもてないと、情緒面で不安定になる生徒もいる。運動面では、どの生徒もそれぞれ粗大運動・微細運動に課題が見られるが、体を動かすことを好む。コミュニケーション面では、発音に不明瞭さが見られる生徒、教員と言葉を用いたやりとりができる生徒、発語がなく、簡単なサインや絵カード等を用いてコミュニケーションを行うことができる生徒など、実態や関わり方は様々だが、人との関わりを好む生徒が多い。一方で、まだ生徒同士の関わり合いは薄いため、今後の学習や活動を通して、生徒同士が関わり合える場面を設定し、集団としてのまとまりも高めていく必要がある。

これらの実態から、個々の力を最大限に発揮できる環境作り・支援を行い、生徒の興味関心や得意なことを活かした活動の設定、生徒同士が関わり合ったり、協働したりする学習の場の設定により、「自分から取り組む力」を伸ばし、「仲間と共にやりとげる」経験を積むことを学級の年間の目標としている。

（３）年間のテーマ設定

前述の通り、中学部では生活単元学習に年間のテーマを設定することで、活動を発展させ、様々な教科等の内容を含めて学習活動に広がりをもたせている。対象学級の平成 29 年度の年間のテーマは「ラーメン店をひらこう」とした。このテーマを設定する際には、「主体的な学び」の視点から、「生徒の興味関心」「活動の広がり」

「ストーリー性」の３点を重視した。「生徒の興味関心」では、生徒個人･学級集団として興味をもっているもの･好きなものとして「食べ物」、特に「ラーメン」を扱うことで生徒たちの動機付けを高めた。「活動の広がり」では、「店づくり」「店の運営」という学習を設定することで、教科・領域を合わせた指導として、様々な学習内容を組み合わせながら、個々の課題にアプローチできるようにした。そして、「ストーリー性」では、生徒たち自身が徐々に「お店をひらく」という最終目標を意識できるように、学習計画に校外学習や体験学習を配置した。また、各活動の目標が生徒にとってわかりやすくなるように努め、その目標を達成することが次の学習の動機付けとなるように、活動の順序を工夫したり､活動後の振返りを設定したりした。これらの設定が、活動や学習内容に必然性を与え、生活の文脈に合った一連の流れとしてストーリーの上で結びつくようになり、生徒の理解を深めることができると考えた。

（４）年間のテーマに関わる学習の流れ

年間のテーマである「ラーメン店をひらこう」にかかわる学習とその流れを以下の通りである。

①

４月　鶏の飼育・柵作り

鶏の世話をしながら、鶏がより快適に過ごせるように、小屋のまわりに柵を作った。

②

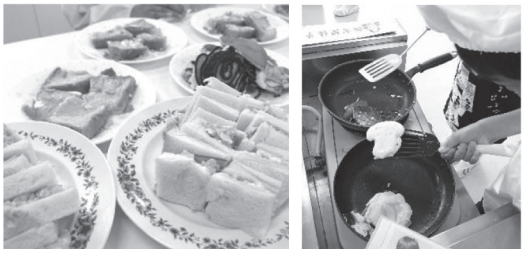
５月　卵を使った調理

鶏が産んだ卵を使って、玉子焼き目玉焼きなど簡単な卵料理を作った。

③

５月　卵を使った調理の発展

卵にパンや、小麦粉など、他の材料を合わせることでさらにいろいろな料理ができることを知った。



④

６月　宿泊学習の夕食としてラーメンづくり

③の学習を経て、夕食に何を作るかを考え、卵と小麦粉で麺を作り、ラーメンを作ることにした。

⑤

９月　ラーメンの改良（問題解決学習）

１学期のラーメンをもっとおいしくするために、ラーメン店で調理のアドバイスをもらい、ラーメンを改良した。

⑥

９月　お店をひらく準備（問題解決学習）

おいしくできたラーメンを誰に食べさせたいか、お店をひらくには何を準備しなくてはいけないかを考え、準備を進めた。

⑦

10 月　ピカイチ★ラーメン開店①（全６回）

お店をひらき、教員や学校の友だち、保護者の方を中心にラーメンを振る舞った。

⑧

11 月　むつめ祭への出店

大学の学園祭にラーメン店を出店した。

⑨	**１月　ラーメン・お店の改良（問題解決学習）** ２学期のラーメン店へのお客の感想と、校外学習で行った日清カップヌードルミュージアムの体験をもとに、お店を改良した。
⑩	**２月　ピカイチ★ラーメン開店②（全７回）** 今までの学習のまとめとして、改良したお店をひらき、教員・生徒・保護者に加え、お世話になった麺松の方や、来校者らにお客にラーメンを振る舞った。

（５）問題解決学習の設定

この「ラーメン店をひらこう」の年間テーマにおいて、問題解決学習を、⑤ラーメンの改良「ラーメンをおいしくするにはどうしたらよいか」、⑥お店をひらく準備「お店をひらくには何が必要か」、⑨お店の改良「お店をよりよくするためにはどうしたらよいか」という３つの単元に設定した。そしてそれぞれの問題･課題について、生徒たちで話し合い、解決策やアイディアを考え、それらを実践する学習を行った。

５．問題解決学習の実践

（１）「ラーメンをおいしくするにはどうしたらよいか」

１学期のラーメン作りの経験から、生徒たちには「おいしいラーメンを作りたい」という興味関心の高まりが見られた。そこで、「さらにラーメンをおいしくするにはどうしたらよいか」という話し合い活動を設定し、生徒たちからアイディアをつのった。考えるための支援として、写真やイラストを用いて、醤油・味噌・塩など様々な味や具材の種類とそれぞれの作り方があること、学校の近くにあるラーメン店の存在を知らせたりすることで、考えを深められるようにした。

話し合いの中で、「ラーメン屋さんに聞いてみる」という意見が生徒たちから挙がったことを受け、地域のラーメン店「麺松」においしいラーメンの作り方についてインタビューを行った。お店の方からは、出汁の取り方、麺や具材作りの工程についてアドバイスをいただき、それらをもとに自分たちでオリジナルの煮干しスープの醤油ラーメンを作ることができた。教わった内容を自分たちで実践したり、生徒同士で相談・検討したりしたことで、生徒からは「スープを作るときの水の量に気をつける」という声が聞かれたり、麺の茹で方や具の盛りつけ方を意識する姿が見られたりするなど、ラーメンをおいしくする方法について学びの深まりが見られた。また、生徒たちは実際のラーメン店の方から直接指導を受けられたことや自分たちで作ることができたことが自信となり、「このラーメンを知ってもらいたい」「他の人にも食べさせたい」という声があがるなど、他者への意識にも芽生えが見られ、次の学習への発展に期待する様子が伺えた。

（２）「お店をひらくには何が必要か」

ラーメンの改良を経て、次に取り組んだのが「お店をひらくには何が必要か」という単元である。この単元では、前時の「他の人にも食べさせたい」という生徒の想いをもとに、「お店をひらく」ためにはどんなものが必要か、何を準備しまければならないかと投げかけた。考えるにあたっては、「麺松」の外観・店内・制服などの写真を提示したり、食事をした際の様子を振り返ったりすることで、生徒が考えを深める手がかりとした。

お店に必要なものとして、生徒たちからは「お店（店舗）」「看板」「制服」「食器」「接客（注文、提供等）」などが挙げられた。これらのアイディアをもとに、開店準備として、①お店作り・②器作り・③制服作りの３つの制作活動と、④調理・接客の練習を行った。

①お店作りでは、木工活動を主体として、屋台をイメージした注文スペースと、店内・店外に設置する看板を作成した。色味やデザインなどは「麺松」を参考とし、木材を切る・やする・塗装する・組み立てる活動を生徒の実態に応じて役割分担を行いながら進めた。

②器作りでは、学校の近隣にある「陶芸会館」に協力していただき、粘土の成形の仕方や焼き上げまでの工程の説明とその体験をした。その経験をもとに、学校でどんぶり作りを行った。プラスチックのどんぶりを型にして成形を行い、乾燥･素焼き･釉がけ･本焼きを行った。

③制服作りでは､｢麺松｣の制服を参考に､無地のＴシャツを染料で染め、アイロンプリントでロゴ等をプリントしたＴシャツの制作、ステッチの手縫い･ミシンがけ･アイロンプリントによるデコレーション等の役割分担をしたエプロン・キャップの制作を行った。

④調理･接客の練習では、調理の工程をスープ作り班･麺作り班・具材作り班の３つに分け、接客には、案内・注文・提供・替玉のおすすめ・お店紹介の役割を設定し、生徒の実態や課題に応じて分担した。また工程の空き時間や待ち時間には、箸袋作りや紙ナプキンのスタンプ押し、紙コップの飾りつけ、チラシの折り込みなどの作業を分担した。

学習が進むたびに、生徒たちの中で少しずつお店のイメージが膨らみ、自分たちが考えたアイディアが実現していくことで、意欲的に活動に取り組む様子が見られた。全ての活動を通して、生徒同士が道具や場所を共有したり、材料の受け渡しや共に活動に取り組む中で関わり合ったりできるように、環境設定や支援を工夫した。これにより、相手の活動を見て自分の活動を始めたり、友だちにアドバイスをしたりするなど、他者から学んだり、協働したりする姿が見られた。また、協働作業や役割分担を通して、一人一人が自分の役割を果たすことで、「みんなでお店を作ることができた」という達成感・成就感を得ることができた。さらに、「看板はお客さんに見えやすい方がいいから字を大きく書く」や「注文のときは丁寧な言葉遣いをした方がいい」などの声があがったり、そのための取り組み方を考えて実行したりするなど､各制作の工程で「何のために」「どうやって」という目的や手段についての学びに深まりが見られた。また､生徒たちは､お店や自分の役割に自信をもって活動に取り組み、「はやくお店を開きたい」「お客さんが何て言うか楽しみ」という反応が見られた。

（３）「お店をよりよくするためにはどうしたらよいか」

２学期には、校内でお店を開いてたくさんのお客に来店してもらい、喜ばれたり感謝されたりする経験を積むことができた。また、校外でもむつめ祭（埼玉大学の学園祭）に出店し、学生や地域の方々とも触れ合う機会となった。生徒たちは自分たちのお店やラーメン、役割に自信をもって活動に取り組んでいた。２学期末には学習のまとめとして、また商品への意識を高めるために、日清カップヌードルミュージアムでの校外学習を行った。身近なインスタント麺も自分たちが作っているラーメンと同様の工程で作られていることを知り、「ぼくたちのラーメンと同じだ」「これやったことある」という感想をもつなど、これまでの学習と自分たちの生活がつながっていることを実感している様子が見られた。

これらの経験をもとに、３学期に再度ラーメン店を開く上で、「お店をよりよくするためにはどうしたらよいか」と生徒たちに問いかけた。また、生徒の考えを引き出すことをねらいとして、来店してくれたお客たちが残してくれたビデオメッセージを見たり、日清カップヌードルミュージアムでの体験の様子を写真で提示したりした。お客からのビデオメッセージでは、「おいしかった」「みんなの働く姿が素晴らしい」といった感想に加え、「醤油以外の味も食べたい」や「箸袋が素敵なので、お土産にほしい」といった改善のヒントになるものもあった。

この話し合いでは「醤油味に加えて、味噌味のラーメンを作る」、「お店の雰囲気を出すために提灯を作って飾る」というアイディアが生徒からあがった。これまで２回設定した問題解決学習の経験もあり、生徒たちは意見を述べることや、意志を表示することに慣れ、「提灯」のように､こちらが想定していなかったアイディアも出てくるようになった。生徒たちのアイディアを受けて、お店の改善点として、①味噌ラーメン作り、②提灯作りに取り組むこととなった。

①味噌ラーメン作りでは、醤油ラーメンを作る際にお世話になり、その後も関わりを深めていた「麺松」にゲストティーチャーとして来校してもらい、味噌ラーメンの作り方を教えていただいた。お店の方が見せる手本を食い入るように見つめるなど、生徒たちは新しいスープの作り方に興味をもって取り組んでいた。また、自分たちで作った味噌ラーメンを試食して喜び、「これも食べてほしい」と次のお店の開店を楽しみにする姿が見られた。

②提灯作りでは、風船を芯にして、そのまわりに障子紙を貼りつけて着色をし、最後に風船を抜いて作るバ

ルーンランタンを作った。完成した提灯を電球にかぶせて設置すると、カラフルな提灯がお店の中を照らし、生徒たちからは歓声が上がった。

６．考察

対象学級の生活単元学習において、計３回設定した問題解決学習について、各単元の学習を３つの視点から整理した。

（１）「ラーメンをおいしくするにはどうしたらよいか」

学習のねらい
○ラーメンをおいしくするための方策を考え、実行する。

学習活動	教科等の見方・考え方
○話し合い活動	言葉による見方・考え方
○インタビュー	探求的な見方・考え方
○調理	生活の営みに係る見方・考え方

「主体的な学び」「対話的な学び」の視点	
主体的な学び	・「おいしいラーメンを作る」ことに、興味や関心をもつ。 ・ラーメンの作り方や、「お客さんをもてなす」ということに見通しをもち、調理に取り組む。 ・既習の「ラーメン作り」を振り返って、次のおいしいラーメン作りにつなげる。
対話的な学び	・生徒同士で意見を出し合う。 ・「麺松」の方との対話を手掛かりに、ラーメンの作り方について考える。 ・ラーメンの作り方について、いろいろな方法があることを知り、考えを広げる。

「深い学び」への発展
・「ラーメンをよりおいしくする」という探求の過程で、ラーメンをさらにおいしくする作り方について考えを深め、その考えをもとに自分たちでラーメンをおいしくすることができた。

（２）「お店をひらくには何が必要か」

学習のねらい
○ラーメン店をひらくために必要なものを考え、そのための準備をする。

学習活動	教科等の見方・考え方
○話し合い活動	言葉による見方・考え方
	探求的な見方・考え方
○木工	技術の見方・考え方
○縫製	生活の営みに係る見方・考え方
○調理	

「主体的な学び」「対話的な学び」の視点	
主体的な学び	・話し合い活動、木工、縫製、陶芸、調理、接客の練習等の活動に興味や関心をもつ。 ・学習に見通しをもつて、各活動に取り組む。 ・各制作活動や練習を振り返って、お店の開店につなげる。
対話的な学び	・生徒同士で意見を出し合い、協働して取り組む。 ・陶芸会館の方との対話を手掛かりにどんぶり作りについて考える。 ・「お店に必要なもの」について、他者との意見交換や制作の過程で考えを広げる。

「深い学び」への発展
・「お店をひらく」ための準備の中で、「ラーメン作り」や「ラーメン店での体験」、「陶芸体験」の経験を活かし、お店に必要なものやお店の運営についての考えを深め、その考えに基づいて自分たちの「お店」を作り上げることができた。

（３）「お店をよりよくするためにはどうしたらよいか」

学習のねらい
○ラーメン店をよりよくするための方策を考え、実行する。

学習活動	教科等の見方・考え方
○話し合い活動	言葉による見方・考え方
	探求的な見方・考え方
○提灯作り	造形的な見方・考え方
○調理	生活の営みに係る見方・考え方

「主体的な学び」「対話的な学び」の視点	
主体的な学び	・ラーメン店をよりよくすること、そのための準備に興味や関心をもつ。 ・店でお客さんをもてなすことや、そのための準備に見通しをもつて、各活動に取り組む。 ・お店の運営経験や校外学習等を振り返ってお店をよりよくすることにつなげる。

対話的な学び	・生徒同士で意見を出し合い、協働して取り組む。 ・「麺松」の方との対話等を手掛かりに、新しいラーメンの味について考える。 ・「どうするとお店をよくすることができるのか」について、他者との意見交換や制作をする過程で考えを広げる。

「深い学び」への発展
・「お店をよりよくする」という探求の過程で、これまでのお店の運営の経験を活かし、「お店をよりよくするとはどういうことか」、「そのためにはどうしたらよいか」について考えを深め、その考えに基づいて、味噌ラーメンや提灯を作り、新しいお店を作り上げることができた。

整理した結果からは、「主体的な学び」「対話的な学び」の視点から設定した活動に繰り返し取り組むことで、学習内容について考えを深め、その考えに基づいて創造する姿につなげられたことが伺えた。「提灯」のように筆者らが想定していた以上のアイディアが生徒たちからあげられたことからは、主体的・対話的な学びに繰り返し取り組んだことで、生徒たちが学んだ知識・技能を、生活の中で「生きた知識」として関連付け、獲得した「生きた知識」を問題解決に活かすことができたと考えられる。このことから、知的障害のある児童生徒が苦手とする「知識・技能を関連付ける」という学習の深化に、主体的・対話的な学びを繰り返すことは有効であり、その知識・技能を関連付ける力の伸長が、問題解決に向かう力を高めると考えられる。知的障害教育においては「自ら知識を活用し問題解決に向かう力の向上」こそ、「深い学び」といえるのではないだろうか。

また、本実践を通して、生活単元学習は、生きた知識・技能を獲得しやすいこと、主体性を発揮できる場面・協働が引き出しやすいこと、問題解決場面が設定しやすいことといった点で有効であったと考えられる。さらに、年間のテーマにそって学習を進めたことで、生徒たちが活動やその発展に見通しをもち、活動に主体的に取り組めたことが伺える。知的障害のある生徒だからこそ、これらの学びを、年間のテーマという生活の文脈に合った組織的な一連の活動に基づいて設定することが重要であり、生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながったと考えられる。

7．おわりに

知的障害教育における生活単元学習では、「深い学び」につなげるために、「主体的な学び」・「対話的な学び」を積み重ねることが重要であると考えられる。また、その実現にあたっては、学習の流れがあって、その流れの中で繰り返し活動を設定し、はじめて「主体的・対話的な深い学び」として生きてくる。そのためには、年間のテーマを設定することが有効な手段の一つであると示唆できた。

一方、知的障害教育においては、「対話的な学び」の捉え方として、「対話」という部分について、生徒の実態に応じて、言葉によるやりとりに限らず、「他者との協働」や「場の共有」、または「自己の中での問いかけ」も含めて設定していくことで、幅広い実態に応じた学習が設定できる。「深い学び」でも同様に、「表現」という部分については、「活動に取り組む姿」自体を評価として捉えることも必要だと考えられる。

さらに、実践について整理する過程では、教科等の特質に応じた「見方・考え方」について、生活単元学習は教科等を合わせた指導であるため、その学習がどのような教科を含み、どのように学びにつながっているのかが不明確になってしまう懸念も感じた。本実践では、技術や生活の営みに関わる「見方・考え方」は多く設定されていたが、その他の教科等の見方・考え方についてはバランスを欠いていた。教科等を合わせた指導として、計画的に教科の内容を単元内に配置していく必要があるだろう。

今後も、子どもたちがもてる力を最大限に発揮できる授業作りをめざし、知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」の在り方について考えていきたい。

【謝辞】

本実践をするにあたり、麺松様、陶芸会館様に御協力いただきました。心より感謝申し上げます。

【参考文献】

文部科学省 , 2017, 特別支援学校学習指導要領解説

国立特別支援教育総合研究所 , 2015, 専門研究 B「知的障害教育における『育成すべき資質・能力』を踏まえた脅威課程編成の在り方　－アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・学習評価の一体化－」

中央教育審議会 , 2012.　新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて　－障害学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ　用語集」（答申）

中央教育審議会 , 2012,「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（諮問）

文部科学省 , 2018, 小中学校新教育課程説明会（中央説明）における文部科学省説明資料

【補足資料】 生活単元学習の年間計画 （○単元名 ・主な活動）

学期	月	年間のテーマにかかわる単元	その他の単元	体験・校外学習等
1学期	4	**○にわとりをそだてよう**	**○中学生をがんばろう**	
		・小屋の掃除、エサやり	・自己紹介	
		・柵作り	・学校探検	
	5	・卵料理 → 宿泊学習の食事へ	・学級目標、掲示作り	日進町探検
		○夏野菜をそだてよう		
		・畑づくり		
		・野菜の栽培		
	6	（種/苗植え、水やり、草取り）		宿泊学習
		○宿泊学習をがんばろう	**○林間学校をがんばろう**	
	7	・買い物、調理、入浴、布団敷練習	・レクリエーション準備	
			・山登り練習	林間学校
			・キャンプファイヤー練習	
		○１学期の振り返り	・クラスの時間の過ごし方	
2学期	9	**○ラーメンをつくろう**		地域のラーメン店
		・ラーメンの調理		「麺松」訪問
		○ラーメン屋をつくろう		
		・暖簾・エプロンの制作		
		・どんぶりの制作		
		・お店の制作		
	10	**○お店をひらこう①**		
		○宿泊学習をがんばろう		
		・買い物、調理、入浴、布団敷練習		
		○小麦をそだてよう		
		・畑づくり		宿泊学習
		・小麦の栽培		キッコーマン
	11	**○むつめ祭（埼玉大学学園祭）にお店をだそう**		醤油工場見学
	12	・むつめ祭準備	**○学習発表会をがんばろう**	むつめ祭
		・むつめ祭への出店	・発表練習	日清カップヌードル
		○２学期の振り返り		ミュージアム
3学期	1	**○お店をよりよくしよう**	**○三年生を送る会**	ゲストティーチャー
	2	**○お店をひらこう②**	・三送会準備	「麺松」
	3		**○卒業式をがんばろう**	
		○年間の振り返り	・卒業式練習	